

東京学芸大学 ヒューマンライブラリー

2023



東京学芸大学 playground ラボ

ヒューマンライブラリーは、在日外国人、障がい者、セクシュアルマイノリティなど、生きている「本」と「読者」との対話を通して、多様な生き方を認め合う、多様性に開かれた社会の実現を目指すイベントです。本年は対面開催になります。生きた「本」のタイトル、あらすじは、本ちらし 2, 3 ページにあります。5 冊まで本を借りられ、30 分ずつお話しできます。下記予約フォームで希望する「本」を予約してください。

日時：12月2日（土）12:30～17:30

場所：東京学芸大学 N 棟（中央 4 号館）3 階教室

主催：東京学芸大学ヒューマンライブラリー 2023 実行委員会（代表：岡 智之）

共催：playground 多様性ラボ GAIA

後援：小金井市教育委員会、小金井市社会福祉協議会

協賛：東京学芸大学教職員組合

問合せ先：東京学芸大学国際交流／留学生センター 岡 智之

okatom@u-gakugei.ac.jp

予約フォーム：<https://forms.office.com/r/1Sugmvq1M1>

申し込み締切：11/24（金）まで。定員が埋まり次第締め切ります。先着順で一回のセッションの「本」一冊につき、5 人まで一緒に参加できます。

東京学芸大学ヒューマンライブラリー
2023 申し込みフォーム



東京学芸大学ヒューマンライブラリー2023「本」のタイトル、あらすじ一覧

* 下記の「本」を5冊まで借りられ、30分ずつ対話できます。

作者名	カテゴリー	タイトル	あらすじ
巢内尚子 <NEW>	移民女性支援	移民女性の妊娠、出産	技能実習生の孤立出産など、日本では、移住女性が妊娠・出産をめぐる課題に直面する事態が起きています。今回は、国際社会学とジェンダー研究の視点、さらに現場での移民・難民支援の経験から、日本に暮らす移住女性の妊娠、出産に関連する課題をお話します。あわせて支援者からかねて制度の廃止が求められている外国人技能実習制度とそこにおける移民の就労実態や技能実習生の妊娠・出産関連の課題についてもお話します。
中嶋秀昭 (世界の医療団)	災害対応支援	内戦と震災の被害に遭ったシリア北西部の人々への医療支援	今年の2月6日にトルコ南東部を震源とするマグニチュード7.8の地震が起きました。これにより約1,500万人が被災し、5万人以上の人々が亡くなりました。隣接するシリア北西部でも大きな被害が出、被災者の多くは2011年に始まった内戦を逃れた人々です。現在、290万人のこうした人々を含む全人口450万人のうち410万人が支援を必要としています。世界の医療団は被災者に対する診療などを行っており、人々の状況や支援についてお伝えします。
金功熙 <NEW>	在日朝鮮人	変容する在日朝鮮人としての自己認識と他者との関係	在日朝鮮人の両親のもとに生まれた私は、自身も在日朝鮮人であることは自覚していましたが、民族としてのアイデンティティを育む経験はほとんどありませんでした。そんな私が、大学時代にはじめて在日同胞と出会うなかで、自分自身に対する認識、特に「在日朝鮮人としての自分」がどのように変容し、家族・友人との関係がどのように変わっていったのか、またどのような新たな出会いがあったのかについてお話ししたいと思います。
長江春子	中国帰国者2世	日本と中国の狭間に生きて	中国残留日本人孤児の母を持つ宿命に翻弄されてきました。特に中学から大学までの10年間、中国人と日本人という二つのアイデンティティ、言語や文化の壁、貧困、偏見やいじめに苦しみました。一方で多くの方々から助けられました。そうした経験から学んだことも多く、今の生き方につながっています。そして、長年蓋してきた辛い体験でも若い方々の学びにつながればと、近年自伝を自費出版したりHLに参加したりして自己開示しています
長谷川留理華	ロヒンギャ系日本人	迫害にもいじめにも負けないから今ママになった	私はミャンマーのアラカン州(ラカイン州)で生まれたロヒンギャ民族で、3歳までアラカン州に暮らしていました。父はアラカン州の公立学校で高校教師を務めていました。1988年、ミャンマー全国で暴動が起き、たくさんのロヒンギャ民族が拘束されたり、殺害されたりしました。その後、私が暮らす村にも、軍が父を探しに来ました。ロヒンギャの教師はほとんど拘束されました。父は国内で身を隠すのは限界があると考え、日本へ行きました。その後の人生について。
ワッカス	在日クルド人	日本のメディアにおけるクルド人	皆さんは、クルド人について知っていますか? 本日は、クルド人とクルドの歴史と文化について述べた後、なぜクルド人が難民になったのか、そして日本のクルド人の問題について今回は特にメディアにおけるクルド人についてお話します。
のり <NEW>	LGBT一人親家庭不登校	LGBTの一人親、子ども2人は不登校	Xジェンダー・バイセクシャルの私は、子ども達が乳幼児期の頃一人親になりました。子ども達が少し大きくなり、上の子は3年生の途中、下の子は1年生の途中で既存の小学校を完全リタイア。LGBTであることも、学校教

			育を放棄したことも悩んではいませんが、どちらも少数派ならではの不便さがあります。
りゅーや	LGBT (ゲイ男性)	さまざまな職場でカミングアウトをしてきて感じたこと	これまで6回転職をしてきました。どの職場でもカミングアウトをしてきました。なぜ、わざわざカミングアウトをしたのか？ カミングアウトしてからの周りの反応は？ カミングアウトしやすい職場とそうでない職場の違いとは。どのようなセクシュアリティでも自分らしく生きていける社会や過ごせる職場とはどんなものかを考えるヒントになれば幸いです。
畑野とまと	LGBTQ+	ジェンダーアイデンティティのお話	テレビでは「心の性」などと説明されることがありますが、心の性をみたことありますか？私は見たことがありません。じゃあ、それはいったい何なのか？といったお話です。
ひらり	LGBTQ	トランスジェンダー女性 レズビアン (「T」目「L」) の苦悩	「体の性が男性で恋愛対象が女性」という、傍目からはごく普通の男性にしか見えない、結婚も子作りも可能な私。しかし、トランスジェンダー女性「T」目レズビアン「L」といった複数のマイノリティ性をあわせ持つダブルマイノリティの存在やニーズが世間ではあまりよく知られていないために、その稀有な生きづらさを気軽に相談できる相手がほとんどおらず、生活場面では一人で思い悩むことも多々あります。
及川澄志 (おいかわきよし) <NEW>	聴覚障害	聴覚障害者の世界の一端	日本には約29万人の聴覚障害者が存在しており、その数だけ一人一人の間こえ方が違います。また、コミュニケーションの手段もまちまちです。ここでは、どんな聞こえなのか？聴覚障害者のコミュニケーションとは？といったお話をさせていただきます。
いくみ	身体障害	障がい者の生活について	両上下肢に重度障害を持って生まれた自分の学生時代から今までの話。小学校、中学校は地元の公立校へ通い、高校は特別支援学校へ進学。特別支援学校を卒業後は一般企業に就職し、現在もフルタイムで就業中。普通校と特別支援学校の違いや普通校を選んだ理由、特別支援学校を選んだ理由、先生方や友達との関係などの学校生活や社会人になって感じたことなど話せればと思います。
小山祐介 (コヤ)	うつ病当事者	うつになったあのと、いまとこれから	システムエンジニアとして勤めていた24歳のとき、残業100時間以上の超過労働、常駐先のパワハラが引き金となって鬱を発症しました。10回近く転職、たくさんの人に手を差し伸べてもらってアートやエンタメの活動をしていた結果、実体験を活かした起業の機会をいただくも、挫折。うつ病当事者であり、支援者として障害者グループホームで働きながら気づいたこと、いま自分の中にある葛藤とこれからしていきたいこと、お話します。
浜田有子	失語症・同名半盲	失語症～ある日、突然に話せない、読めない、書けなくなったら？～	旅行、料理本などの雑誌編集、フリーライターをしてきて校了後のある朝、寝たままで起きられず緊急入院。目が覚めて周りを見渡すと、ひらがな、カタカナが全く読めず、会話も通じない。まるで異国に来たようでした。脳梗塞と診断、そして失語症、同名半盲(半側しか見えない状態の視野欠損)という高次脳機能障害になりました。それからリハビリで言語療法と小学生の国語を一から学びつつ。そんな過去と今の日常をお話します。